

Title	2025年に目指すべき社会の姿 : 生涯健康の時代に向けて(<ホットイシュー>イノベーション政策と政策研究(2), 一般講演, 第22回年次学術大会)
Author(s)	重茂, 浩美; 伊藤, 裕子; 金間, 大介; 長谷川, 光一
Citation	年次学術大会講演要旨集, 22: 294-297
Issue Date	2007-10-27
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/7268">http://hdl.handle.net/10119/7268</a>
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

# 1 H 0 7

## 2 0 2 5 年に目指すべき社会の姿—生涯健康の時代に向けて

○重茂 浩美、伊藤 裕子、金間 大介、長谷川 光一 (文科省・科学技術政策研)

### 1. はじめに

本調査研究では、2025年に目指すべき社会像を「生涯健康の時代」と設定し、そこであるべき社会の姿をとらえ、その実現のために必要な技術を抽出することができたので報告する。

### 2. 調査研究の方法

当研究所が2003～2004年度に行った「科学技術の中長期発展に係る俯瞰的予測調査」の結果を、2025年に目指すべき社会像を検討するための材料として用いた。さらに、その調査に参加した専門家および関連する専門家からなる会合を複数回開催し、そこでの議論の結果も検討材料とした。

### 3. 結果

#### 3-1. 2025年に目指すべき社会像の設定

我が国においては、戦後、出生率、死亡率の低下により多産多死型から少産少死型に変化し、急速に高齢化が進んでいる。人口の将来推計によると、2025年前後からは、それまで増え続けていた高齢人口（65歳以上）は一定になると予想されているが、総人口、生産年齢人口（15～64歳）および年少人口（0～14歳）はいずれも減少を続けるため、総人口に占める高齢人口比率は高いままであり、さらなる高齢化社会を迎えることが予想されている（図表1参照）。

先進国をはじめとする多くの国々でも、我が国と同様に、今後はかなりのスピードで高齢化が進むことが確実視されているが、その中でも我が国は、その平均寿命の長さから高齢化において世界のトップを走る国となる。それ故、これから高齢化が始まる世界の国々は、我が国の高齢化社会における施策に注目している。

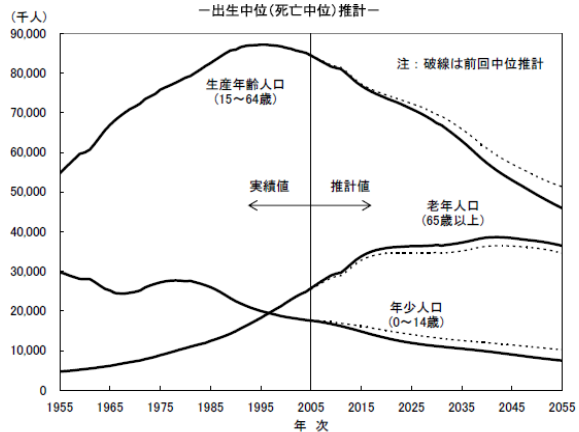
高齢化社会では、個人の健康寿命をどう延ばしていくかが最大の課題になる。これは医療制度と社会保険制度を健全に維持するために必須の条件であり、また一方では、高齢者の幸福追求のみならず、若年層の労働力を維持確保し、日本の成長を維持し続けるための要件にもつながる。人口減少に伴う労働力を補う意味においても、高齢者を社会に活かすことを考えるうえでも、老若や性を問わず、個人の健康維持は豊かな国民生活の前提条件となることは必須である。

以上の状況を踏まえ、超高齢化社会に象徴される2025年において目指すべき社会像を、「生涯健康の時代」と設定した。

#### 3-2. 健康の定義の検討

まず、目指すべき健康とは、具体的にどのような状態であるかを検討した。その結果、本調査研究ではWHO（世界保健機関）憲章に掲げられた健康の定義を採用することにした。WHO憲章では、「完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」（日本語訳：厚生労働省ホームページより）と定義されている。我々はこの定義をより具体的に示すために、健康である状態を「病気や虚弱ではない」ことのみならず、「肉体的にも精神的にも安定」しており、

図表1 年齢3区分別人口の推移



出所:厚生労働省社会保障審議会第3回人口構造の変化に関する特別部会 資料1「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)結果の概要」より抜粋

かつ「充実した社会的生活を送っている」ことと定めた。以下、この健康の定義に基づいて、疾病の予防・診断・治療を通じて具体的な健康のあり方を考え、また、国民一人一人の健康が維持・延伸されることによってもたらされる社会像について、日常生活の場とそれを支える医療施設を舞台にして検討を行った結果を記述する。

### 3-3. 「生涯健康の時代」の人々の姿 —全体像の設定—

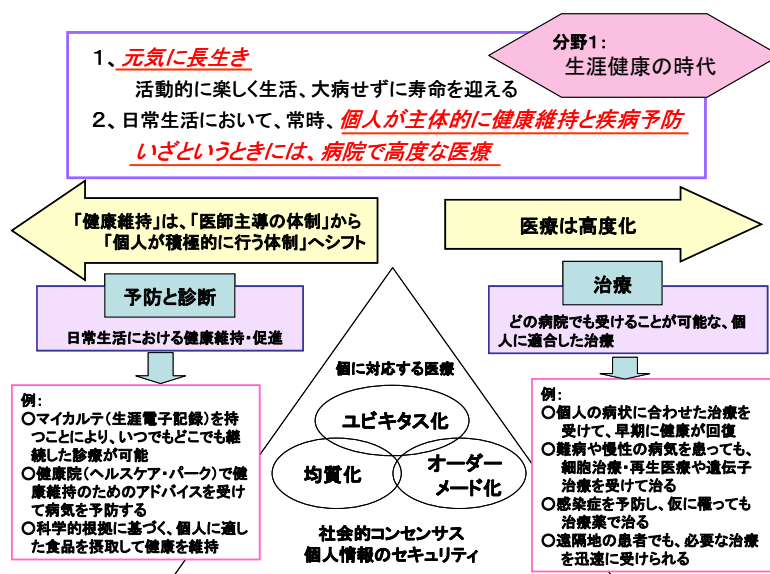
2025年の超高齢化社会においては、国民の医療に対する考え方のパラダイムシフトが起こっていることが想定される。その意味するところは、医師主導の健康管理ではなく、自らがより積極的に医療に関与することにより自分自身の健康を維持する、いわゆるセルフケアの時代の到来である。その一方で、医療技術は更なる発展を遂げ、難病や慢性疾患の多くは克服され、国民は充実した家庭生活を送るとともに、社会においても年齢や性を問わず、元気で生きがいのある生活を送っていると考えられる。

したがって、「生涯健康の時代」の人々の姿は、以下の2点に集約されると考えられる。

- ① 元気に長生き。活動的に楽しく生活し、大病せずに寿命を迎える。
- ② 日常生活において常時、個人が主体的に健康維持と疾病予防を行い、いざというときには病院で高度な医療を受ける。

そこでは、健康を保ち疾病を予防する健康維持と促進（日常生活）とともに、疾病の効果的な治療（医療施設）が大きな関心事となっている。これらは国民一人一人に適合し（医療のオーダーメイド化）、同じレベルで（医療の均質化）、国民誰もが平等に享受できる（医療のユビキタス化）ものである（図表2参照）。

図表2 「生涯健康の時代」の全体像



### 3-4. 「生涯健康の時代」の人々の姿 —想定される社会像の設定—

図表2で示したように、生涯健康を目標とする社会は、日常生活における個人の健康維持と促進、及び医療施設における高度医療が両輪となって実現する。以下、この社会像の概要を述べる。

### ①日常生活における個々の健康維持と促進：疾病の予防・診断・初期治療

2025 年は個人の健康観に適応した予防医療システムが整備されており、その一端として、医療機能（の一部）は医療施設から個人の日常生活の場面にシフトしている。そこでは個人が随時、医療情報ネットワークを通じて医療施設と健康に関する情報交換を行い、自らの健康状態を把握している。その手段は煩雑な操作を伴わず、また個人の志向に合わせた様々な選択が可能であるため、個人はごく自然に、かつ楽しみながら健康を維持している。

個に対応した予防医療は地域を問わず受けることが可能であり、離島に住む人々も都心部に住む人々と同様、日常生活においてごく当然に健康を維持している。

個人は日本の食文化を維持しつつも、自らの体質・体調に合わせた、科学的根拠に基づいた適切な食品を摂取することにより、生活習慣病等を予防している。

このように日々、個人はストレスなく、むしろ楽しみつつ健康を維持することで重篤な疾病のリスクを軽減し、結果として生死をさまよう大病にかかることはほとんどなくなる。

### ②医療施設における高度医療：疾病の高度診断・高度治療

加齢により、がんなどの疾病にかかるリスクは大きくなるが、2025 年はそれを回避するための高度診断・高度治療法が浸透している。個人は医療施設で高度診断システムに基づいた定期健診を受けることにより、重度な疾病を早期に発見し、早期の治療につなげている。また個人の意志に基づき、多様な QOL の選択が可能になっている。

医療施設では、高齢、難治性・慢性疾患や身体障害に対する積極的かつ根治的な治療が展開されており、薬物療法、細胞治療・再生医療、遺伝子治療、感覚補綴などの高度医療により、各種疾患を克服した人々が自らの価値観に基づき、生き生きと日常生活を送っている。仮に根治には到らなくても、疾患をうまくコントロールしながら日常生活を快適に過ごしている。また、疾病予備軍は個人に応じた予防的治療により、発症を予防している。

不慮の事故による負傷者や急病人は、24 時間体制の地域密着型緊急医療施設へ迅速に搬送され、生命の危機を免れている。

上記の治療を受ける際には、個人は医師と医療コーディネータの双方とよく話し合い、自らの意志に基づいて、ライフスタイルや病態に合わせた効果的な治療法を選択している。これらの診断・治療は苦痛をとまわず、また要する時間はごく短いため、日帰りの通院等、ごく短期間で済ませることができる。

## 3-5. 「生涯健康の時代」の人々の姿 ―生活者の視点から見た変化の抽出―

3-4. で設定した社会像をベースとし、「生涯健康の時代」における国民の生活について、家庭を中心とした日常生活と医療施設における事例、及びそれらに関連する技術についてまとめた（図表3）。ここでは、当研究所が過去に調査研究を行ったデルファイ課題との関連づけも行った。

## 4. まとめと考察

本調査研究では、2025年に目指すべき「生涯健康の時代」の社会像をとらえ、その実現のために必要な技術を抽出することができた。検討にあたっては、当研究所が過去に実施した「科学技術の中長期発展に係る俯瞰的予測調査」の結果に加えて、その調査に参加した専門家および関連する専門家から新たに意見を取り入れたことが非常に有効であった。

一方、本調査研究で深く取り上げることが出来なかった事項として、先端医療技術の社会的適用に係る課題の検討が挙げられた。特に再生医療については、倫理的・法的・社会的諸問題の解決と、社会的合意形成を図るための制度・手続きの新たな構築が必要であると考えられた。

図表3 「生涯健康の時代」の生活像の例

日常生活における個々の健康維持・疾病の予防・診断・初期治療				
<p><b>【生活像】</b> マイカルテ(生涯電子記録)と医療情報ネットワークを使って、いつでもどこでも診察が受けられるようになる。</p> <p><b>【関連デルファイ課題】</b> ・個人のすべての検査結果、病歴、投薬等の医療情報をカード1枚に蓄積し、利用できるシステム ・家庭における健康管理と異常時の診断システム</p>	<p><b>【生活像】</b> 個人の生活に合わせて、いつでも精神的・肉体的にリフレッシュできるようにする。</p> <p><b>【関連デルファイ課題】</b> ・高齢者フィットネス・プログラム自動作成システム ・精神的ストレスの定量化技術</p>	<p><b>【生活像】</b> 体に良い食品を適量食べて、健康維持ができるようになる。</p> <p><b>【関連デルファイ課題】</b> ・高齢者に特有の、抗酸化機能・脳機能・咀嚼機能の低下を防ぎ、健康な高齢社会を食から支える食品と食療法 ・生活習慣病の予防が可能となる、個人の体質に応じた機能性食品</p>	<p><b>【生活像】</b> 好きな時に、健康維持のための指導を受けられるようになる。</p> <p>疾病予防のためのトータルコーディネートを行う場としての「ヘルスケア・パーク(健康院)」を日々利用し、健康維持、疾病予防や医療について楽しく学習し、健康への不安感に対するカウンセリングを受ける。</p>	
医療施設における高度医療・疾病の高度診断・高度治療				
<p><b>【生活像】</b> 病気にかかりやすいかどうかを診断してもらい、病気の予防対策ができるようになる</p> <p><b>【関連デルファイ課題】</b> ・ゲノムによる疾病の易罹患性診断法 ・ほとんどすべてのがんの血液検査による早期診断法 ・生活習慣病のリスクをもたらす主要なSNPs(一塩基変異多型)の解明に基づくテーラーメイド医療</p>	<p><b>【生活像】</b> 三大疾病(がん・心疾患・脳血管障害)、アルツハイマー病などの神経変性疾患、生活習慣病および感染症が薬物療法、遺伝子治療、細胞治療・再生医療でほぼ治るようになる。</p> <p><b>【関連デルファイ課題】</b> ・がんのオーダーメイド治療 ・糖尿病の遺伝子治療法 ・家族性高コレステロール血症の遺伝子治療法 ・胚性幹細胞を用いた障害臓器の再生治療技術 ・アルツハイマー病の根治薬 ・がんの転移を防ぐ有効な技術</p>	<p><b>【生活像】</b> 誰でも感覚機能を十分に備えて、活動的な生活を送れるようになる。</p> <p><b>【関連デルファイ課題】</b> ・コンピュータを用いて脳の運動関連活動を信号化・伝達することにより、脊髄・末梢神経を介さずに義肢などを随意的に制御する技術 ・感覚機能を備えた義手・義足</p>	<p><b>【生活像】</b> 高性能医療機器により、痛くなく、楽に病気の治療を受けられるようになる。</p> <p><b>【関連デルファイ課題】</b> ・がん治療に有効な放射線治療および増感薬 ・生体(管腔臓器)内を自走する診断・治療用マイクロマシン ・埋込み式排尿制御装置</p>	<p><b>【生活像】</b> 患部への侵襲が最小限で治療をしてもらえるようになる。</p> <p><b>【関連デルファイ課題】</b> ・バーチャルリアリティ技術を駆使した遠隔手術システム</p>